

再生塾・基礎編セミナーへの参加結果について 【報告】

■セミナー参加の目的

- 摂津市地域公共交通計画で、「公共交通人材の育成・確保」を施策として位置づけ
- その中で、**利用促進等の取組を実践できる人材の育成を目的とし、外部機関が開催している公共交通セミナーへの参加・案内**を行うこととしている
- ⇒公共交通が抱える現状の理解を深め、さらに実践知識が得られるセミナーに参加することで、公共交通人材育成・確保につなげる

■再生塾・基礎編セミナーに参加することとした趣旨

- 本セミナーは、交通政策に携わる担当者だけでなく、地域住民も受講対象者となっており、公共交通の基礎内容のレクチャーが中心
- 講師が大学教授、自治体交通政策担当、交通事業者、交通政策コンサルタント等から構成され、様々な視点から公共交通の理解を深めることができる

- 近畿圏からの参加者が多いため、共通の課題・悩みを抱えている地域の知見・ノウハウが得られる

- 2008年から継続的に実施され、開催実績が豊富

▼該当する施策「施策6-2 公共交通人材の育成・確保」

【施策 6-2】公共交通人材の育成・確保						
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通を持続的に確保・維持していくためには、公共交通ネットワークの充実や利用促進の実施など、多方面から様々な取組が必要となります。 公共交通に関わる人材の充実に図るため、利用促進などの取組を実施できる人材の育成や運送を担う乗務員の確保に取り組み、ひいては、こうした人材が新たな人材の育成・確保につながるような好循環の実現を目指します。 国の制度などを活用し、交通に関する知識やデータ活用のノウハウ、コーディネートのスキルなどを有する人材を育成します。 人材育成にあたり、公共交通事業者や学識者による講演や市民参加型のワークショップなどのプログラムを開催するほか、外部機関が開催している公共交通のセミナーへの参加・案内を行います。 定年退職後の消防職員からの乗務員転籍など、運転手確保の支援に関する取組についても検討します。 					
具体的な内容	<p>【事例・取組イメージ】</p> <p>▼人材の発掘・育成を進めるための制度</p> <p>■国土交通省 モビリティ人材育成事業 【事業概要】：地域公共交通のリエゾンを推進するため、モビリティ人材（交通に関する知識・データ活用のノウハウ・コーディネートのスキルなどを有する人材）の育成に関する仕組みの構築や運営を行う事業 【補助対象事業者】：自治体、公共交通事業者、まちづくり団体などの民間事業者・NPO 法人など 【補助率・上限額】：定額（上限 3 千万円）</p> <p>▼定年退職後の消防職員から乗務員転籍（三重県桑名市）</p> <p>出典：桑名市</p>					
	<p>▼住民などの参加が可能な公共交通に関するセミナー</p> <p>出典：NPO 法人再生塾 HP</p>					
役割	主体	【摂津市】事例収集、具体的な実施方法の検討、庁内・事業者調整、外部セミナーへの参加・案内(道路交通課) 【鉄道・バス・タクシー事業者】人材の受入れ体制の整備 【市民】プログラムへの積極的な参加				
	連携・協働	【鉄道・バス・タクシー事業者】プログラムの企画・開催の協力 【大学】プログラムの企画・開催の協力				
実施時期	令和7年(2025年)	令和8年(2026年)	令和9年(2027年)	令和10年(2028年)	令和11年(2029年)	次期計画
	プログラム企画 → プログラムの実施、見直し・改善 → 外部セミナーの参加・案内、乗務員確保の取組の検討					

NPO法人再生塾および基礎編セミナーの概要

■NPO法人再生塾について

再生塾は、まちと交通の課題の解決・再生に向け、多くの人と対話を通して“ビジョン”と“夢“を共有し、関係する様々な立場の人たちの取り組みを実践的に支援することで、安心して豊かな「持続可能な暮らし」を実現することを目的として活動する団体。

まちづくりや交通に携わる学識経験者、行政関係者、技術者の有志らが相互に連携しながら、それぞれが専門とする技術や経験をもとに、各地域でまちづくりと交通政策に関わる行政団体、企業等の実務者や地域住民を実践的に支援するべく、セミナーや研修活動を積極的に展開。

■再生塾・基礎編セミナーの概要

<日時> 令和7年5月25日（日）

<内容>

1	レクチャー	我が国の公共交通の現状・問題	龍谷大学教授	井上 学
2	レクチャー	公共交通政策の実践知識		土井 勉, 大藤 武彦
3	レクチャー	再生塾フィールドにおける成功体験・失敗体験	神戸市 交通局	児玉 健
4	意見交換	昼食をとりながらグループワーク「私の問題意識」		参加者全員
5	討 論	再生塾サミット 再生塾 中枢メンバーが語る「私の問題意識」		土井 勉 福永 良一 山本 信弘 辻堂 史子 進行 : 正司 健一
6	意見交換	グループ・ワーク「問題解決に向けて」		参加者のみなさまから

<対象者> 地方自治体の交通政策担当、交通事業の計画担当、交通政策プロジェクトを推進するコンサルタント、交通政策を学ぶ学生、地域住民など

■再生塾・基礎編セミナーの講師紹介

 <p>井上 学 龍谷大学 教授 バス交通や乗り合いタクシーなどの適切な運営について地方自治体や交通事業者とともに目指している。 関西地域の複数の自治体で公共交通会議の委員等を務める。博士（文学） ●著書：「京都の路線バス徹底解剖」</p>	 <p>土井 勉 一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長 京都市・阪急電鉄・京都大学等を経て、2019年から現職。博士（工学）・技術士（建設部門）、専門は「総合交通政策とまちづくり」。多くの行政などの公共交通政策の委員を務める。 ●著書など：「ビジョンとドリームのまちづくり」（神戸新聞社）「都市計画とまちづくりがわかる本」（彰国社）「つながりのコミュニティ」（岩波書店）、「ガチャコン電車血風録」（岩波ジュニア新書）「クロスセクター」に関する研究など ●受賞：大阪駅北地区国際コンセプトコンペ優秀賞受賞(2003)、関西まちづくり賞（2022年）、JCOMMプロジェクト賞(2024)など多数 ●HP：「公共交通のトリセツ」編集会議（https://kotsutorisetsu.com/）</p>
 <p>大藤 武彦 株式会社交通システム研究所 福祉のまちづくりからITSまで、地に足をつけた技術と研究を継続 ●活動：NPO法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾 理事 ●資格：技術士（建設部門、総合技術監理部門）</p>	 <p>児玉 健 神戸市交通局 副局長 ホットな心とクールな頭でバス事業を支えるアイデアマン。 長く京都市域の路線バス運営に関わり、2019年秋に神戸へ移る。市バスと神姫バスの共通定期券導入、「三宮・エリア110」などシームレス化や運賃政策を立案、実行。</p>
 <p>福永 良一 大阪府 都市整備部 所属では、流域下水道、交通施策等都市整備行政、防災危機管理行政に従事。 あらゆる立場の人が集まる場に魅力を感じ、交通施策から離れてからも再生塾に関わっています。 ●活動：NPO法人持続可能なまちと交通を目指す再生塾 理事 & L F ●資格：技術士（上下水道部門／下水道）、一級土木施工管理技士</p>	 <p>山本 信弘 ジェイアール西日本コンサルタンツ株式会社 鉄道事業者・第3セクター鉄道会社・地方自治体にて、鉄道の駅や設備改良等のインフラ整備計画に関わり2022年度より現職。 多くのステークホルダーが関わる交通まちづくりでは、さまざまな相反することに対して思考停止にならないことを心がけています。</p>
 <p>辻堂 史子 株式会社ティデザイン 代表取締役 コンサルタントとして神戸市・京都市・富山県等の交通施策の実践に携わる。行政や交通事業者との話し合いの中での気づき・発見を大切に、世の中が少しでも良くなることを夢見る酒豪少女。よろず相談承ります。まずは一献呑みながら。 ●活動：NPO法人持続可能なまちと交通を目指す再生塾 L F ●資格：技術士（建設部門）</p>	 <p>正司 健一 神戸大学 名誉教授 都市公共交通の運営、交通政策、鉄道事業者の経営戦略に詳しく、著書・論文等多数。交通まちづくり、鉄道・道路・空港等のネットワークインフラ、さらに行財政改革の議論に参画。博士(商学) ●著書：「都市公共交通政策:民間供給と公的規制」「ポスト・モータリゼーション-21世紀の都市と交通戦略」等 ●受賞：第23回国際交通安全学会賞(2002)、日本交通学会賞(2002、2011)、第63回交通文化賞(2020) 等</p>

セミナー参加報告

参加者

種別	所属	氏名
交通事業者	近鉄バス株式会社	宮本 義博
	京阪バス株式会社	北西 進太郎
公共交通利用者	公募市民	森田 恵子
事務局	摂津市 建設部 道路交通課	高畑 美季

プログラム

- ① レクチャー 我が国の公共交通の現状・問題
- ② レクチャー 公共交通政策の実践知識
- ③ レクチャー 再生塾フィールドにおける成功・失敗体験
- ④ グループワーク「私の問題意識」
- ⑤ 討論 再生塾サミット
- ⑥ グループワーク「問題解決に向けて」

① レクチャー 我が国の公共交通の現状・問題

あるべき地域公共交通の姿…

「移動の選択肢は
たくさんあるほうがよい」

※ ※摂津市地域公共交通計画(30～50年先の目標①「新技術などを含めた多様なモビリティにより、市内のどこからでもアクセスできるまち」

- 情報(利用者数や運行経費のほか、利用者1人あたりの公的資金投入額)の可視化が重要
- 施策を進める際のコンセプトを明確にすること
- 新たな移動手段導入時の留意点や、だれが移動を担うのか…など

② レクチャー 公共交通政策の実践知識

「だれの、
どんな移動を、
だれが、
どんな風に」支えるのか？

【ターゲット】

【どこに行きたいのか】

【市・公共交通事業者・市民・地域・企業…】



- 連携・協働
- 地域特性に応じてよく議論すること

③ レクチャー 再生塾フィールドにおける成功・失敗体験 ⑤ 討論 再生塾サミット

塾生とフィールドの
「共創」

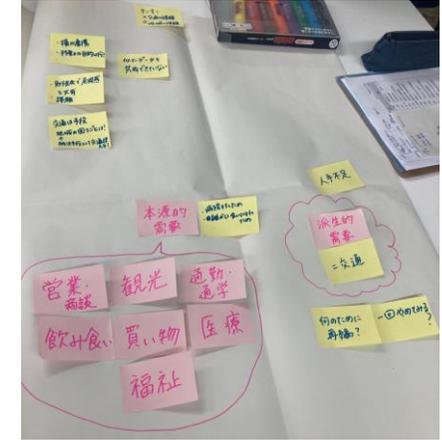
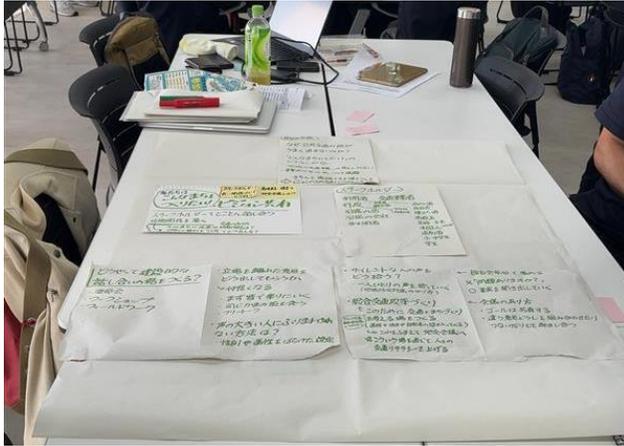
- 問題解決の提言やサミットでは、今後の取組のヒントとなる情報も！

 公共交通トリセツ



セミナーの内容

④⑥ グループワーク「私の問題意識」「問題解決に向けて」



参加者から

- 今摂津市が直面している問題と、これからの計画に重なる事案がほとんどで、どの地域も同じ問題を抱えていると思いました。
- 印象に残ったこと
 - 公共交通の取組には市民と地方自治体等の連携・協働が重要
 - 競争するルートでは、利用者目線の改善が必要
 - 「バスとして成立する路線」「新しい移動手段で運行する地域.. 路線」の再検討
 - 公共交通を高齢者だけでなく子育て支援の視点からも捉えることが重要
 - 運転手不足対策として、募集の支援継続は必須 など
- セミナーは机上の話が多い傾向があるが、事業者の立場にたった講師もあり、産学官の有識者が、対等に話をできる場であり有意義でありました。
- 今後公共交通のあり方を考えるうえで、行政・利用者・事業者それぞれの利害関係者が、お互い胸襟を開き、すぐにできることできないことを整理してギャップを埋めていくことが重要だと再認識しました。

参加者から(続き)

- 再生塾セミナーを受講させていただきありがとうございました。行政や交通事業者、コンサルなど多数の参加があり、受講者グループでの話し合いも活発に行われ有意義でありました。
- 井上教授からは、「地域の特徴や路線の利用者特性に合わせて独自の取り組みを実施」が重要とのことでしたが、そのとおりだと思います。また同先生の「一方で公共交通を利用しない人の大きな声をふまえた取り組み」についても今後市内輸送検討に際しては十分注意すべきことだと思います。決して「公共交通を利用しないメンバーで構成される会議体」にならないようにと思います。
- ただ、前述のようにセミナー参加者としては交通のことに携わっている、わかっている人々がほとんどで、単なる一般市民、交通利用者はいないと思います。摂津市の取組として地域公共交通協議会のメンバーや行政職員をこのようなセミナーに参加させるのは非常によいことだと思います。あとは、市主催で一般市民向けにこのようなセミナーやワークショップ、あるいは公共交通利用促進イベントなどを行い、広く公共交通への理解の醸成や適正な交通ネットワークの計画などに役立てられればと思考いたします。

- 「地域をどうしていきたいのか?」「『豊かさ』とはなにか? 『豊かさ』の再定義が必要」等、今後の施策検討・推進にあたっての重要な観点を再認識する機会となりました。
- 事例紹介において、バス車内での「イネ ブザー」設置や、通学定期券の色分けなど、乗務員さんとのワークショップにより生まれた取組や、利用者へのわかりやすさに着目した、バスの時刻を「毎時〇分発」に統一するなど、ヒントになるアイデアを吸収できたと感じています。

